

目次

|   |    |
|---|----|
| はしがき                                      | 1  |
| 第一章 『おみやげ』 『宇宙人の宿題』 『おむすびころりん』 付 『モチモチの木』 | 3  |
| 第一節 『おみやげ』 と 『宇宙人の宿題』                     | 3  |
| 一 『おみやげ』 と 『宇宙人の宿題』 について                  | 3  |
| 二 読み方                                     | 5  |
| 第二節 『おむすびころりん』                            | 7  |
| 一 問題の所在                                   | 7  |
| 二 『おむすびころりん』 の背景                          | 9  |
| 付 『モチモチの木』                                | 10 |
| 第二章 『野ばら』 と 『一つの花』 について                   | 13 |
| 第一節 『野ばら』 について                            | 13 |
| 一 はじめに                                    | 13 |
| 二 登場人物の無名性                                | 14 |
| 三 自己犠牲——ヒューマニズムの根底にあるもの                   | 16 |
| 四 現実の受容・逃避・沈黙                             | 16 |

|   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| 五 | 対比                           | 18 |
| 六 | 文体                           | 21 |
| 七 | 象徴                           | 21 |
|   | 第二節 『二つの花』について               | 22 |
| 一 | はじめに                         | 22 |
| 二 | 物語の構造を読むこと                   | 23 |
| 三 | 家族の肖像                        | 25 |
| 四 | コスモスの意味                      | 29 |
|   | 補説                           | 30 |
|   | 第三章 『ろくべえまってるよ』と『つり橋わたれ』について | 33 |
|   | 第一節 灰谷健次郎の『ろくべえまってるよ』をどう読むか  | 33 |
| 一 | はじめに                         | 33 |
| 二 | 四つの問題                        | 34 |
| 1 | まず母親の役割                      | 34 |
| 2 | 地上の穴とは                       | 38 |
| 3 | ロープと恋人クッキーの問題                | 39 |
| 4 | 「ろくべえ」という名前について              | 40 |
|   | 第二節 長崎源之助『つり橋わたれ』をどう読むか      | 41 |

|                             |                            |    |
|-----------------------------|----------------------------|----|
| 一                           | はじめに                       | 41 |
| 二                           | まずトッコの抱える問題から              | 42 |
| 三                           | 母親の問題                      | 42 |
| 四                           | 風の子の問題                     | 43 |
| 五                           | つり橋の問題                     | 44 |
| 六                           | まとめに代えて——教材Ⅱ学習材として扱う場合の留意点 | 44 |
| 第四章 『わらぐつの中の神様』をめぐって        |                            |    |
| 一                           | 『わらぐつの中の神様』                | 48 |
| 一                           | 『わらぐつの中の神様』の構造をとらえる        | 48 |
| 二                           | 二つの疑問                      | 50 |
| 第二節 カリキュラムについて              |                            |    |
| 一                           | 隠されたカリキュラム                 | 51 |
| 二                           | 価値の転倒は可能か                  | 52 |
| 第五章 『ごん狐』をめぐって              |                            |    |
| 第一節 児童・生徒のために・・ワークシート作成のために |                            |    |
| 一                           | 『ごん狐』を読むためのワークシート          | 57 |
| 二                           | いろいろな本文があるということ            | 68 |

|   |     |
|---|-----|
| 第二節 先生のために……………                               | 69  |
| 一 『ごん狐』と『伊勢物語』……………                           | 69  |
| 二 『ごん狐』の注釈的読解……………                            | 77  |
| 第六章 『少年の日の思い出』について……………                       | 85  |
| 第一節 『少年の日の思い出』……………                           | 85  |
| 一 作品の構造を知る……………                               | 85  |
| 二 語りの方場の設定について……………                           | 87  |
| 三 語りの時の設定について……………                            | 88  |
| 第二節 役割……………                                   | 89  |
| 一 母親の役割……………                                  | 89  |
| 二 作品の末尾について……再び「作品の構造」について……………               | 91  |
| 三 エーミールとはどんな存在であったのか……………                     | 93  |
| 四 「僕」はなぜ「ちようを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった」のか…………… | 96  |
| 第七章 井上ひさし『握手』の指導をめぐって……………                    | 99  |
| 第一節 研修会……………                                  | 99  |
| 一 内容……………                                     | 99  |
| 二 「枠小説」「枠物語」として『握手』を読んでみる……………                | 104 |

|     |                     |     |
|-----|---------------------|-----|
| 第二節 | タモリの弔辞              | 106 |
| 一   | 弔辞                  | 106 |
| 二   | 私とは                 | 113 |
| 第八章 | 『山椒大夫』——群読覚書——      | 119 |
| 第一節 | 山椒大夫とは              | 119 |
| 一   | 山椒大夫略史              | 119 |
| 二   | 鷗外『山椒大夫』の独自性        | 122 |
| 三   | 奇蹟をどうあつかったか         | 125 |
| 第二節 | 鷗外は何を切り捨てたのか        | 127 |
| 一   | 鷗外の牽制球：歴史を書くことの意味   | 127 |
| 二   | 『かのやうに』             | 134 |
| 三   | まとめ                 | 137 |
| 第九章 | 『高瀬舟』——喜助は誰を殺したのか—— | 139 |
| 第一節 | 問題点                 | 139 |
| 一   | 主題は必要ないか            | 140 |
| 二   | 問題の所在               | 141 |
| 三   | 『高瀬舟』の書誌の確認         | 142 |

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 第二節 読む                           | 143 |
| 一 「縁起」を読む                        | 143 |
| 二 「高瀬舟」の構成・内容                    | 151 |
| 三 再び「縁起」を読む                      | 152 |
| 四 「高瀬舟」の末尾をどう読むか                 | 154 |
| 五 もう一つの主題                        | 157 |
| 補説                               | 164 |
| ◎参考資料1                           | 165 |
| 参考資料2                            | 167 |
| 第一〇章 「舞姫」は近代小説か                  | 171 |
| 第一節 舞姫をどうとらえるか                   | 171 |
| 一 問題の所在                          | 171 |
| 二 「結語」の部分はどう読むか                  | 172 |
| 三 「序」の抱える問題 — 「日記」そして「恨」         | 174 |
| 第二節 問題点                          | 182 |
| 一 「本節」の抱える問題 (一) — 「手紙」そして「なすな恋」 | 182 |
| 二 「本節」の抱える問題 (二) — エリスの形象        | 185 |

|  |     |
|--|-----|
| 第一章 『徒然草』 第五二段考——仁和寺の老僧はなぜ石清水に参詣したのか——             | 191 |
| 第一節 問題の所在  | 191 |
| 一 はじめに   | 191 |
| 二 諸説の整理  | 194 |
| 第二節 僧  | 202 |
| 一 仁和寺にある法師とは                                       | 202 |
| 二 「少しの事」とは   | 215 |
| 第二章 『筒井筒』（『伊勢物語』二三段）を中心に<br>——大学等における古典教育の可能性を探る—— | 219 |
| 第一節 古典教育   | 219 |
| 一 はじめに   | 219 |
| 二 『伊勢物語』二三段へのアプローチ                                 | 221 |
| 第二節 参考資料   | 234 |
| 一 『大和物語』「蘆刈」へのアプローチ                                | 234 |
| 二 『落窪物語』へのアプローチ                                    | 238 |
| 三 まとめ  | 241 |
| 第二三章 石川 淳の書論                                       | 243 |

|   |     |
|---|-----|
| 第一節 書論                                      | 243 |
| 一 はじめに                                      | 243 |
| 二 書の稽古法                                     | 245 |
| 第二節 背景                                      | 246 |
| 一 時代的な背景                                    | 246 |
| 二 芸術としての書の可能性                               | 250 |
| 第一四章 『中学校「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』に関する私見 | 255 |
| 第一節 走れメロスの場合                                | 255 |
| 一 はじめに                                      | 256 |
| 二 「参考資料」の課題                                 | 256 |
| 三 『走れメロス』読解の基礎                              | 261 |
| 四 異本とはなにか                                   | 267 |
| 五 『走れメロス』の最後の場面                             | 271 |
| 第二節 『枕草子』の場合                                | 278 |
| 一 キーワードとは                                   | 278 |
| 二 本文はどこへいった                                 | 283 |
| 三 作者はどこにいる                                  | 291 |



|                           |     |
|---------------------------|-----|
| 四 『枕草子』の授業のために……………       | 294 |
| 五 まず音読を……………              | 294 |
| 六 何を学ぶのか……………             | 295 |
| 七 『枕草子』初段で考えてみる……………      | 296 |
| 八 「春は曙」の授業 教材Ⅱ学習材の言葉…………… | 297 |
| 九 教材Ⅱ学習材の把握……………          | 298 |
| 一〇 筆者の視点……………             | 299 |
| 一一 発展的な学習……………            | 300 |
| 一二 授業の展開……………             | 302 |
| 付説1……………                  | 305 |
| 付説2……………                  | 307 |
| 附属資料 「短歌を作る」指導のための資料…………… | 311 |
| あとがき……………                 | 319 |

## はしがき

まず現役の先生方におたずねします。教科「国語」の授業をどのように行っていますか。悩みはありませんか。ことに「文学」教材を扱うのにご苦労をなさっていますか。そのご苦労は先生自身が教材を読み解く教材研究の段階で、既に起こっていたのではないのでしょうか。こんな疑問が、機会あって多くの授業を参観をさせていただいている間に湧いてきました。私ならこうも読むかな、ああも読めるかな等と言う、その感覚をその都度その都度、先生方にお話し書き留めてきました。そしてそのことを社会人を対象とした生涯学習の講座や公共図書館の読書会などで話させていただくと、初めてあの話はそうだったのかとか、ようやく謎が解けたとか言って下さる方に何人も出会いました。本書はそうした私の経験の中から書き置いてきたもののいくつかを撰んで一冊にまとめたものです。

教科「国語」の教材には、長い歴史の中で、生き残ってきた、名作と言って良い作品が沢山あります。おもしろかった。楽しかった。思わず泣いてしまったと言う感想もあれば、何が何だかわからなかった。あの教材に出会わなかったら、「国語嫌い」にはならなかった等など、「国語」の教科書に採用されている教材についての思い出をこの本を手にとって下さった皆さんはきつとお持ちだと思えます。また今、現に「国語」が苦手な授業がいやだ嫌だと国語拒否症にかかってしまったままにしている児童や生徒さんもあるかも知れません。あるいはまた、授業でこの教材をどう扱うのがいいのか、明日の授業の構想が湧かず、児童や生徒にとって何が最適なのかと悩んでいる先生もおられるかも知れません。あるいは大学等で「文学」関係の講座を受講していてレポートをどのようにまとめればいいのかパソコンの前で手をこまねいている学生さんもあるかも知れません。本書がそうした皆さんのお役に少しでも立てればと願っています。

本書は小学校教材から順に中学校教材、そして高等学校教材さらには大学での授業の事始めのなもの。また、書写や書道の抱える基本的な問題に焦点をあてたものを、基本的には学年進行にあわせて配列をしてあります。勿論、どの章段からお読みくださっても結構です。小中の連携や中高一貫校も珍しいものではなくてきています。小学校ではどうなっているのか、中学校に行けばどうなるのか。高等学校はどうなのか等、そうした興味や関心でお読み下さっても結構です。

引用本文は教科書に採用されているものは原則としてそれを用い、他のものは出来るだけ入手しやすいものを使用し、出典の必要な場合には、割注あるいは後注で示しました。また、今日では差別的と見られる表現や差別語と受け止められる用語もありますが、テキストのもつ時代性を示していると考えられる面もあり、そのままにしました。仮名遣いは古文の本文以外は現代仮名遣いに直した所、また旧字体は現行の自体に改めた所もあります。

著者

## 第一章 『おみやげ』『宇宙人の宿題』『おむすびころりん』付『モチモチの木』

小学校の低学年の読み物教材・学習材として用いられることのある『おみやげ』『宇宙人の宿題』『おむすびころりん』等を中心にその取り扱い上の留意点について、気の付いたことをいささか述べておきました。

### 第一節 『おみやげ』と『宇宙人の宿題』

#### 一 『おみやげ』と『宇宙人の宿題』について

この二つの教材に共通する面白さは、ブラック・ユーモアとも言えるものであって、しかもそれが、〈さげおち〉としてきちんと話の最後のところまでまとまっているという点でしょう。言い換えますと話の運び方が十分に計算されており〈さげおち〉の所まで巧みに読み手を誘導していくように構成されていると言うことであって、作品の技量に任せて読み進めれば、自然と読み手である児童にも作品の面白さが感得できるように仕立てられている教材と言ってよいでしょう。ただ問題は、教材そのものの持つ思想というか人間観というか、作品そのものの「ものの見方や考え方、価値観」そのものが、この〈さげおち〉をブラック・ユーモアと感じさせる仕掛けとなっていることであって、この作品の持つ、いうなれば「毒の部分」をどこまで児童が読解できるかが、大きな課題であると言うことになります。

進化論的な考え方の否定と言ったら少し強い言い方になるかも知れませんが、少なくとも科学技術万能の考え方、

あるいは文明の発達、そのまま人間の幸福を必ずしももたらすものではないと言うことを、この二つの教材「学習材は根底に含んでいる」と言うことができます。そしてさらにいえば、科学技術の進歩や機械文明の発達を促すことになる人間の様々な活動の源にあるもの、創造と破壊の二つの根元的な衝動への不安があるともいえます。単なる人間讃歌ではないところにこの教材「学習材」のおもしろさがあるとと言ってもよいでしょう。

日本では、今や昔語りになされた高度経済成長期、その時期に著しく顕在化してきた公害問題を初めとする地球環境悪化の問題、それはまさしく現代における課題として眼前にあるわけですし、システム化された社会が十分に機能することができずに制度疲労と言われるような問題の様々な形での発生、情報格差の問題といったことから生じる人間疎外（古い手垢のついた言葉ですが、残念なことに未だに十分生きています）などの課題が、言い換えると人間自身が進歩と発展と信じて活動してきたことが生み出した難題が人間の存在そのものを脅かしはじめ、人間の歴史における進歩とは一体何であったのかと言うことが問われ、その結果としての課題にどう対処していけばよいのか、それに対応することのできる力が結局のところ「持続可能な社会をどう創るか（SDGs）」という課題として、現在にも、求められているのだとも言えましょう。

確かに、技術そのものは次から次へと改良され発展し、手足の機能や触覚・視覚の延長線上に様々の新しい道具を人間に与え続け、ついには脳の機能すら代行するようなもの（ChatGPTなど）まで、発明されて来ました。しかし、その様々の道具類が本当に人間の幸福を保証してくれるものなのかどうか。例えば、原子力発電所のうち続く事故に象徴される原子力の持つ陰の部分のもたらす被害の大きさ、あるいはかなり以前の事になりますがスペースシャトルコロンビア号の事故などは技術に振り回される人間のもろさ危うさを感じさせ、改めて人間の歴史や個人の生き方、価値観について、問い直しを迫るものがあります。

人間いや人類という「種」にとって一番大切なものは何なのでしょうか。進歩しすぎた科学技術をもはや制御する